

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 203-0031

所在地 東京都東久留米市南町1-13-38

評価機関名 株式会社ふくし・ファーム

認証評価機関番号

機構 04 - 134

電話番号 03-3332-3334

代表者氏名 加藤 正樹

以下のとおり評価を行いましたので報告します。



評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	加藤 正樹	福祉	H0601051
	②	中野 航太	経営	H2001058
	③	城本 有理	福祉	H2401056
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	ういず千住大橋駅前保育園			
事業所連絡先	〒	123-0038		
	所在地	東京都足立区千住橋戸町2-6		
	TEL	03-6806-2871		
事業所代表者氏名	上田 弘美			
契約日	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 11 月 4 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 12 月 10 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 9 月 10 日			
自己評価結果報告日	2025 年 12 月 10 日			
訪問調査日	2026 年 1 月 22 日			
評価合議日	2026 年 2 月 19 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事前説明には、評価の理解を深めていただくため、評価の全体像や具体例を用いた分かりやすい資料を作成し、ていねいに説明を行いました。事業評価においては、自己評価の事実確認に徹し、第三者性の担保に配慮しました。また、利用者調査および事業評価の集計結果は、独自開発による集計シートを用い、グラフ・表により分かりやすく報告しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 3 月 31 日

事業者代表者氏名

社会福祉法人

彩保育会

理事長

新井

実



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 利用者一人ひとりを大切にする関わり 個々の育ちを大切に丁寧な保育 自己肯定感を高める保育 子どもの社会性を育てる保育 ライフバランスを大切に
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 個性豊かな人間性 誠実に人と向き合うことができる コミュニケーションを楽しむ 楽しく学ぶ姿勢 自己肯定感を持つ
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 命を預かる責任の重さを感じながら子どもと関わる 人として大切なことは何か考えて保育に取り組む 1つの仕事に取り組む責任感を持ち最後までやり遂げる 関わる相手を尊重する 利用者に対し平等に関わる

調査対象

調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。
[調査対象世帯数:94世帯(在園児109名)]

調査方法

園より保護者全員に調査票を配布して頂きました。回収については、評価機関への郵送、または園内に設置した回収箱への投函により提出して頂くようにしました。

利用者総数

109

利用者家族総数(世帯)

94

共通評価項目による調査対象者数

94

共通評価項目による調査の有効回答者数

72

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

76.6

利用者調査全体のコメント

「現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていますか」との質問に対して、「大変満足」40.3%、「満足」40.3%、「大変満足」と「満足」を合わせて80.6%の回答率となっています。「どちらともいえない」13.9%、「不満」0%、「大変不満」0%、無回答が5.6%でした。個別設問では、問3「提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか」について「はい」の回答率が91.7%で最も高く、問4「保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか」では「はい」の回答率が54.2%と最も低くなっています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	63	8	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の87.5%を占め、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が1.4%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	64	7	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の88.9%を占め、「どちらともいえない」が9.7%、「いいえ」が1.4%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	66	5	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の91.7%を占め、「どちらともいえない」が6.9%、「いいえ」が1.4%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	39	24	8	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の54.2%を占め、「どちらともいえない」が33.3%、「いいえ」が11.1%、「無回答＋非該当」は1.4%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	51	3	1	17
この項目では、「はい」と答えた方が全体の70.8%を占め、「どちらともいえない」が4.2%、「いいえ」が1.4%、「無回答＋非該当」は23.6%という結果でした。自由記述では、満足を示す声が複数寄せられました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	57	15	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の79.2%を占め、「どちらともいえない」が20.8%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	53	15	4	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の73.6%を占め、「どちらともいえない」が20.8%、「いいえ」が5.6%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	53	11	7	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の73.6%を占め、「どちらともいえない」が15.3%、「いいえ」が9.7%、「無回答＋非該当」は1.4%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	55	15	2	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の76.4%を占め、「どちらともいえない」が20.8%、「いいえ」が2.8%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	60	12	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の83.3%を占め、「どちらともいえない」が16.7%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	59	11	0	2
この項目では、「はい」と答えた方が全体の81.9%を占め、「どちらともいえない」が15.3%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は2.8%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	50	15	0	7
この項目では、「はい」と答えた方が全体の69.4%を占め、「どちらともいえない」が20.8%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は9.7%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	56	14	2	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の77.8%を占め、「どちらともいえない」が19.4%、「いいえ」が2.8%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	63	5	0	4
この項目では、「はい」と答えた方が全体の87.5%を占め、「どちらともいえない」が6.9%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は5.6%という結果でした。自由記述では特筆すべき意見はありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	57	13	2	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の79.2%を占め、「どちらともいえない」が18.1%、「いいえ」が2.8%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	47	13	4	8
この項目では、「はい」と答えた方が全体の65.3%を占め、「どちらともいえない」が18.1%、「いいえ」が5.6%、「無回答＋非該当」は11.1%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	43	7	15	7
この項目では、「はい」と答えた方が全体の59.7%を占め、「どちらともいえない」が9.7%、「いいえ」が20.8%、「無回答＋非該当」は9.7%という結果でした。自由記述では特筆すべき意見はありませんでした。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリー1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
	評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく	○非該当	
カテゴリー1の講評			
保育方針・目標については、入社時や入園説明の際に、職員と保護者に説明しています 法人の運営理念として「保護者には安心保育と子どもと共に歩む喜びを」を掲げています。園の保育方針は「心も体も自立した豊かな人間性を持った子どもを育成する」、保育目標は「思いやりの心を育てる・健康な体をつくる・自主性と意欲を養う」と定めています。園のビジョンや理念については、入社時研修や職員会議でマニュアルを活用しながら伝え、職員の理解を深めています。保護者には、園見学や入園説明の際に、重要事項説明書や「Guardian Letter」を用いて分かりやすく説明しています。 経営層は福利厚生の見直しやICT化を進め、職員定着と業務効率化に取り組んでいます 園長は施設運営と保育全般を統括し、「職員の意欲向上」と「地域の情報収集」を重要な役割と位置付けています。これらの役割や責任は職務分担表や園長昇格要件に明記し、職員会議などで周知しています。園長を支える体制としてエリア園長を配置しており、定期的に園を巡回するとともに、人事・運営・渉外などの業務をサポートしています。経営層は福利厚生の見直しやICT化、保育内容の改善に取り組んでいます。これにより職員の定着、業務効率化、保育の質向上につなげています。 園の重要な案件については、リーダー会議で検討し、会議や書面で職員に周知しています 法人の重要な案件を検討する場として運営会議やエリア園長会議を設けています。園の重要な案件についてはリーダー会議で検討しており、会議には園長・主任・トップリーダー・サブリーダーが参加しています。最近、園内で検討し職員に周知した事項として「不適切保育を発見した際の報告方法」があり、職員会議や書面で共有しています。また、保護者に周知した事例として「保育料の徴収方法の変更」があり、書面で周知しています。周知にあたっては早目に説明を行い、混乱が生じないように配慮しています。			

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6		
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリ2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5		
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリ2の講評 アンケートや個別面談などを通じて、利用者・職員のニーズを定期的に把握しています 利用者のニーズは、行事アンケートや個別面談、保護者会、運営委員会などを通じて把握しています。その一例として、運動会では保護者の入場が混雑することから整理券を配布し、スムーズな入場ができるよう工夫しました。また、個別面談や職員アンケートを通じて職員のニーズも確認しており、職員同士が意見交換を行う機会も定期的に設けています。 「園児の獲得」と「保育内容の充実」を優先度の高い課題と位置付けています 地域の福祉ニーズは、私立園長会や法人本部からの情報を基に把握しており、それを踏まえて保育所体験を実施しています。福祉事業全体の動向を把握するため、日本子ども育成協議会や日本保育連盟などの保育ネットワークに参加し、業界誌も購読しています。以上のように事業環境を分析した結果、「園児の獲得」と「保育内容の充実」を優先度の高い課題と位置付けています。 単年度の計画には、具体的な数値目標を設定し、進捗状況を職員会議で共有しています 中・長期計画は、中期を3年、長期を5年単位で策定しています。計画は法人本部を中心に作成し、定員の確保と職員の定着を重点目標としています。単年度計画は前年度末に園長・主任・トップリーダーを中心に作成し、設備改修を重点施策として取り組んでいます。具体的には、屋上の壁やネットの補修などが挙げられます。計画の内容は職員会議で園長が説明し、進捗状況は「入所率」や「ヒヤリハット報告件数」などの目標を設定し、定期的に共有しています。計画の見直しが必要な場合は、各種会議で検討し、園長を中心に判断しています。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー3の講評
	研修やマニュアルの読み直しを通して、コンプライアンスへの理解を深めています 法人職員および保育職員として守るべき法令や規則については、就業規則や「保育者基本マニュアル」などを整備しています。関係書類は事務室内のキャビネットに保管し、法人本部を中心に入社時研修や階層別の必須研修、WEB研修を実施して職員の理解を深めています。WEB研修は業務の合間にも受講しやすいよう、テーマ別に短時間で学べる動画形式を採用しています。さらに、各役職ごとの要件シートの提出や年2回のマニュアル読み直しにより理解度を確認し、必要に応じて園長やエリア園長が面談を行い支援しています。 虐待が疑われる場合はマニュアルに基づき、児童相談所と連携し、対応しています 苦情があった際は主任が受け付け、園長が解決にあたっています。こうした体制や役割は、重要事項説明書や掲示を通して保護者に伝え、意見や要望には、苦情解決規程などに沿って対応し、直接対応のほか、保護者会や書面などで回答しています。職員の子どもへの適切な関わり方は「保育者基本マナーマニュアル」に示し、あわせて法人としてコミュニケーションスキル研修を実施し理解を深めています。虐待が疑われる事例が生じた場合は、「人権擁護・児童虐待防止マニュアル」に基づき、児童相談所などと連携して対応しています。 中高生の職場体験や地域の未就園児家庭を対象とした保育所体験を実施しています ボランティアの受け入れは「ボランティア受け入れの流れ」に沿って、園長および法人本部が対応しています。活動内容としては、絵本の読み聞かせや散歩の同伴など、子どもとの関わりの機会を設けています。前年度は、実習生7名の受け入れに加え、中高生の職場体験として4名を受け入れました。地域貢献の取り組みとしては、子育て支援事業「保育所体験」を実施するとともに、夏祭りなどの行事にも地域の方々を招待しています。こうした取り組みは、ホームページや園見学の際に周知しています。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
園児の定員割れや職員の離職を優先リスクと捉え、具体的な対策を講じています 運営に関わるリスクとして、「園児の定員割れ」「職員の離職」「保育の質の低下」などを挙げ、中・長期事業計画に明示しています。これらのリスクへの対策は職員会議で検討しています。具体的には、「ホームページを通じた情報発信、保育所体験の実施」「処遇改善やメンター制度の導入」「非認知能力を伸ばすための保育内容の強化」などの取り組みを進めています。 大規模地震・風水害・感染症を想定した事業継続計画(BCP)を策定しています 災害や重大事故に備え、大規模地震・風水害・感染症を想定した事業継続計画(BCP)を策定しています。災害発生時は法人本部を対策本部とし、園には3日分の防災備蓄品を備えています。また、給食時の誤食や午睡中のSIDS発生、水遊び中の溺水などを想定した緊急搬送訓練を実施しています。事故・感染症・不審者侵入・災害などが発生した場合は、事故報告書やヒヤリハット報告書を作成し、発生要因を職員会議で分析するとともに、再発防止策を掲示や一斉メールで利用者に報告しています。 機密性の高い文書やデータには閲覧制限やアクセス制限を設け、適切に管理しています 情報の収集・利用・保管・廃棄については、就業規則および個人情報保護規程で定めています。内容は情報管理研修や保育者マナー研修を通して周知し、理解を深めています。また、秘密保持誓約書を取り交わし、情報管理や文書管理の遵守を求めています。個人情報や機密性の高い文書は事務室内の鍵付きキャビネットに保管し、電子端末にはID・パスワードを設定するなどアクセス制限を設けています。文書閲覧は事務室内のみとし、持ち出し禁止としています。機密文書を廃棄する際は、専門業者による溶解処理を行っています。		

5 職員と組織の能力向上			カテゴリー5
サブカテゴリー1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当	
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当	
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当	
サブカテゴリー2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当	

カテゴリー5の講評

インターンシップの受け入れやOB会・園見学バスツアーなどで採用活動を進めています

職員の採用では人柄を重視し、求人専用ホームページでの情報発信、オンライン説明会の実施、インターンシップの受け入れ、OB会や園見学バスツアーの開催などを通して応募を促しています。育成と将来の人材構成を見据え、「人事制度マニュアル」に異動や配置の指針を明示し、進退面談で職員の意向を把握しています。キャリアパスは15階層で設定し、面談や人事制度説明会で共有しています。人材育成の方針や方法は役職別の要件シートに示し、キャリアパスに沿ってリーダー職員にはトップリーダー研修やチームマネジメント強化研修を実施しています。

法人研修として、階層別やOFFJT研修、役職者候補向けの育成研修を実施しています

職員のスキルアップを図るため、法人研修としてOFFJT研修、階層別研修、WEB研修を実施しています。OFFJT研修では、保護者支援・非認知能力・障害児保育・食育など多様なテーマを扱っています。階層別研修では、園長候補となる主任やトップリーダーを対象とした研修も行っています。園内研修では、嘔吐処理やAED研修、緊急搬送訓練を実施しています。さらに、職員一人ひとりの気づきや工夫を活かすため、各会議で意見交換を行い、経験の浅い職員から経験豊富な職員へ順に発言を促すなど、発言しやすい環境づくりを進めています。

バス旅行やメンター・メンティ制度の実施により、良好な人間関係づくりを図っています

職員の育成と評価は、役職別の要件シートを参考にしながら、人事委員会や園長・エリア園長による個別面談を通して行っています。評価者は適正な評価ができるよう専門研修を受講しています。福利厚生として、完全週休二日制、宿舍補助制度、社員寮制度のほか、ピアノやダンスなどの習い事に活用できるスキルアップ手当も整備しています。職員の意識は自己評価シートや職員アンケートで把握に努め、職員バス旅行や食事会の開催、メンター・メンティ制度の実施により、良好な人間関係の構築を図っています。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動
カテゴリー7 サブカテゴリー1(7-1)		
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)		
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 前年度、園児の定員割れを重要課題の一つとして認識していました。背景には、周辺に保育園が増えたことがあります。この課題に対し、園児獲得を目的に園見学と保育所体験を実施しました。見学では、主任・園長が対応し、事前に見学者の知りたい内容を確認して、それに沿った説明を行っています。また、保育内容に関心を示した見学者には、イングリッシュタイムなどのプログラムに合わせた保育所体験への参加を促しました。保育所体験の実施は随時行い、ホームページのほか、嘱託医・児童館・公民館・図書館・商業施設・町会・フットサル場などにポスターを掲示して広く周知しました。その結果、保育所体験の参加者が増え、入園につながったケースもあるなど成果が見られました。園では、おおむね目標を達成したと自己評価しています。今年度はこれまでの取り組みを継続するとともに、「すくわくプログラム」の内容をホームページに掲載するなど、情報発信の強化にも取り組んでいます。		
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった	
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 園児の獲得に向け、具体的な取り組みを進めています。園見学では事前に希望内容を確認し、見学者の関心に沿った説明や保育所体験への案内を行うなど、丁寧な個別対応がなされています。さらに、地域施設や掲示板を活用した広報により、保育所体験の参加者が増加し、今年4月にはほぼ定員を満たす成果も確認されています。今年度はこれまでの取り組みを継続するとともに、ホームページでの情報発信を強化し、地域への周知と入園者獲得の両面でさらなる成果が期待されます。		

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度は「中堅職員の育成」を重要課題として掲げました。特にサブリーダーの育成を図るため、サブリーダー会議の実施方法を見直しました。これまで報告主体であった内容を見直し、意見交換の機会を増やしています。各サブリーダーが今月取り組んだ内容や課題などを共有しつつ、毎月1つのテーマを設定し、職員育成や業務の改善について話し合う形式に変更しました。こうした取り組みにより、サブリーダーとしての意識が高まり、職務遂行力の向上につながりました。おおむね目標は達成できたと自己評価しています。今年度は、会議に一年目のサブリーダーも参加することで、育成機会の拡大を図っています。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

昨年度はサブリーダー会議の実施方法を見直し、単なる報告中心から意見交換の場へと改善するなど、実践的な工夫が行われています。各サブリーダーが取り組み内容や課題を共有し、月ごとにテーマを設定して話し合うことで、職務理解や組織運営への関与意識が高まったことが育成の成果として示されています。今年度は一年目のサブリーダーも会議に参加させ、育成機会をさらに拡大しています。今後も、こうした継続的な意見交換と経験共有を通じて、組織全体の成長につなげる取り組みが期待されます。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当	
サブカテゴリー1の講評			
リーフレットやホームページを通じて、園の方針や保育の取り組みを紹介しています 園の情報発信として、法人発行のリーフレット「Guardian Letter」では、保育方針や「安全・健康・英語・まなび・うんどう・こころ」をテーマに保育の取り組み、保護者向けサービスなどを写真付きで紹介しています。園独自のリーフレットでは、「園長挨拶・手作り玩具・運動遊び・園庭・散歩マップ」などを、写真を多く使って分かりやすく伝えています。さらに、ホームページでは園紹介ムービーや施設概要、空き情報のほか、写真アルバムも掲載しています。 区のホームページや地域の施設を通じて、園の情報を広く地域に発信しています 園の情報は、行政や関係機関などに提供し、区のホームページにも関連する情報が掲載されています。また、地域子育て支援実施施設一覧には、「園庭開放・行事参加・保育体験・施設見学・子育て相談・健康相談・離乳食体験・英語体験」などの地域子育て支援の内容が掲載されています。さらに嘱託医・児童館・公民館・図書館・商業施設・町会・フットサル場にポスターを掲示するなど、園外施設を通じて園の情報を地域に届けています。 園長・主任が見学対応を行い、園の特徴や保育内容を分かりやすく説明しています 見学者対応は主に園長・主任・トップリーダーが担当し、随時見学を受け入れています。大規模園であることを踏まえ、一人ひとりに丁寧に対応するとともに、乳児担当制保育の実施や体幹を育むプログラム、環境づくりなど園の特徴を分かりやすく説明しています。また、見学者が抱える質問や不安に配慮し、何を知りたいのかを傾聴してニーズを引き出すことにも努めています。加えて、保育所体験の場でも園の保育内容を紹介しています。			

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
入園前説明会の際に保育内容やサービス内容について説明し、同意を得ています 入園が決まった利用者には、「入園のしおり・家庭状況調べ・入園までの生活状況」などの資料を郵送で配布しています。また、3月に入園説明会を開催し、保護者からの質問に答える時間を設けたり、持ち物の見本を確認できるよう準備するなど、保育内容や園生活について詳しく説明しています。サービス内容については重要事項説明書で説明し、プライバシー保護については重要事項説明書や「ホームページ掲載内容等の同意書」を通じて同意を得ています。さらに、入園前面接で保護者の希望や意向を把握し、入園時間き取り表に記録しています。 子どもの不安やストレス軽減を目的に慣れ保育の期間や登園時間を調整しています サービス開始にあわせて、アレルギーや既往歴など子どもの健康状態を「入園までの生活状況」や健康記録を通じて把握しています。その上で、子どもが安心して園生活に慣れるよう、慣らし保育の期間を1週間～10日程度と設定しています。期間中は、登降園時に一人ひとりに丁寧に配慮できるよう、家庭ごとに登園時間を10～15分ずらしています。また、子どもが安心して過ごせるよう、上掛けタオルや哺乳瓶、タオルハンカチなどの持ち込みも受け入れています。 退園・転園児には園庭開放の案内を行うなど、継続的な支援に努めています 卒園前に退園や転園をする園児には、各クラスでお別れ会を実施し、制作帳や卒園アルバム(時期により)をプレゼントしています。また、卒園児には行事への参加を、退園・転園児には園庭開放の案内を行うなど、園とのつながりが続くよう配慮しています。転園先には、必要に応じて児童票を提供し、園児の情報を適切に引き継いでいます。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
ICTアプリを活用し、子ども一人ひとりの成長記録や家庭の情報を管理しています 子どもの心身や生活状況を把握するため、0～2歳児クラスでは保育日誌に個々の記録欄を設け、連絡帳は毎日取り交わしています。加えて、月案個別記録や身体測定記録も作成し、これらの情報はICTアプリで管理しています。家庭や保護者の個別ニーズや支援方針は個別指導計画に記録しています。さらに、児童票には0歳児は毎月、1・2歳児は隔月、3～5歳児は四半期ごとに内容を整理して記録しています。		
全体的な計画に基づき指導計画を作成し、保護者会や個別面談で内容を説明しています 「全体的な計画」は2025年3月に更新し、それを基に年・月・週・日単位の指導計画を作成しています。個別指導計画は、0・1・2歳児クラスや配慮が必要な子どもを対象に作成しています。計画作成では、食事・睡眠・排泄など子ども一人ひとりの生活リズムや個人差を考慮し、保護者と情報共有しながら対応策を検討しています。さらに、保護者会や個別面談で「全体的な計画」や指導計画の内容を説明しています。保育目標の達成状況は、職員会議・リーダー会議・サブリーダー会議で評価しています。		
定例会議やICTアプリを活用して、職員間で子どもや保護者の情報を共有しています 職員間で子どもに関する情報を共有するため、月1回、園長・主任・トップリーダー・保育士・看護師・栄養士・調理師が参加する職員会議を実施しています。加えて、リーダー会議・サブリーダー会議・給食会議・乳幼児会議などの定例会議も行っています。各クラスでは毎日5～10分の短時間ミーティングを実施し、日々子どもや保護者の状況を申し送りノートやICTアプリで共有しています。さらに、子ども一人ひとりへの理解を深めるため、会議で「気になる家庭と個々の育ち」をテーマに事例を持ち寄り話し合う機会も設けています。		

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
子どもの羞恥心への配慮として、環境を整えるとともに着替えの指導を行っています 個人情報の取扱いについては、入園説明会で説明し、「重要事項説明書」や「ホームページ等同意書」により同意を得ています。突発的に情報提供が必要な場合には、電話やメールで保護者の同意を得るなど柔軟に対応しています。子どもの羞恥心に配慮し、着替えの際はパーテーションやカーテンで目隠しを行い、3歳児以上は男女別にしています。また、全裸にならないようラップタオルの使用を促し、看護師がプライベートゾーンの大切さを伝える取り組みも行っています。おむつ交換はパーテーションを使用し、専用スペースで行っています。 各家庭の状況に応じて、生活や食習慣に配慮した対応を行っています 子ども一人ひとりを尊重する姿勢は、「人権擁護・児童虐待対応マニュアル」に示しており、人権研修などを通して理解を深めています。その際、「主体性を大切にする保育」などをテーマに学んでいます。また、保護者の価値観や生活習慣に配慮するため、行事アンケートや個別面談で意向を把握しています。仕事が休みの際の保育受け入れや、苦手な食材を無理に食べさせない対応なども行っています。さらに、食事では宗教や文化に配慮した個別対応を実施しており、水遊びの際にはラッシュガードの着用などにも柔軟に対応しています。 虐待防止研修やセルフチェックを活用し、振り返りの機会を設けています 虐待や育児困難な家庭に関する事案については、「人権擁護・児童虐待対応マニュアル」に基づき対応しています。虐待防止と適切な対応に備え、職員はOFFJT研修や市の虐待防止研修に参加しています。あわせて、「人権擁護・虐待防止のためのセルフチェックリスト」を実施し、職員自身が日々の関わりを振り返る機会としています。また、不適切保育に関する研修を専門講師を招いて年4回実施しています。さらに、虐待に関するニュースが報道された際には、新聞やインターネット記事を回覧して職員間で共有し、意識の向上につなげています。			

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
業務の標準化を図るため、法人のマニュアルや園独自のマニュアルを整備しています 業務の標準化を図るため、法人として「危機管理・園外保育・感染症対応・人権擁護・給食・食品衛生・アレルギー対応・個人情報保護・保育業務・基本マナー・事故防止・SIDS対応・健康管理・苦情解決・BCP」など、多岐にわたるマニュアルを整備しています。園独自でも「お散歩マップ」などを作成し、職員間で共有しています。業務の実施状況は、エリア園長・園長・主任が確認しており、年2回全職員で確認する機会を設けることで、マニュアルに対する理解の普及を図っています。 マニュアルを適宜見直し、業務水準の向上を図っています 業務水準の向上を図るため、法人の各種マニュアルは栄養士会・看護師会・園長会議・エリア園長会議などを通して定期的に見直し、必要に応じて改訂しています。見直し内容は園長を通じて全職員に共有しています。また、園独自に作成しているお散歩マップについても適宜見直しを行い、危険箇所や安全に利用できる場所の情報を更新しています。なお、お散歩マップは玄関に掲示し、保護者にも見える形で共有しています。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	36 / 36
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当		
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当		
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当		
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当		
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当		
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当		
評価項目1の講評				
生活や遊びの目的に応じたコーナーを設け子どもの発達や興味に応じ環境を整えています 園内は園庭や屋上園庭を備え、活動に活用できる十分な広さの廊下もあるのが特徴です。室内には「食事・排泄・着替え」の生活のコーナーや、「積み木・ブロックなどの構成遊び、ままごと、机上遊び」などのコーナーを設けています。また、玩具棚や道具棚、絵本棚を整備し、子どもが自ら遊びを選び取り出せる環境を整えています。さらに、子どもの興味や発達に応じて玩具の入れ替えや手作り玩具も取り入れています。0・1・2歳児クラスでは、担当制による少人数グループ保育を取り入れ、個々の育ちにしていねいに対応できる体制としています。 英語や郷土料理、伝承遊びなどを通して、国内外の文化に親しむ機会を設けています 「年上の子どもへのあこがれや年下の子どもを思いやる気持ちを育むこと」を目的に、戸外活動や朝夕の合同保育を通じて異年齢の交流機会を持っています。また、海外の文化に親しむ機会として、「イングリッシュタイム」を実施しています。プログラムでは、パスポートを作成して飛行機に搭乗するイメージを楽しみ、各国に入国した際にパスポートにステッカーを貼るなど、遊び感覚で英語に親しめる工夫をしています。さらに、郷土料理や伝承遊びも取り入れ、国内の文化にふれる機会も設けています。 小学校との連携や体験活動を通じて、子どもが安心して就学できるよう支援しています 配慮を要する子どもの受け入れについては、職員の加配やパーソナルスペースの確保など、環境面の工夫を行っています。さらに、子ども支援センターなどの専門機関と連携し、子ども一人ひとりに適した支援に努めています。子ども同士のトラブルが生じた際には、そばで見守りつつ子どもの声に耳を傾け、かみつきなどの行動には遊びや空間の工夫を取り入れて予防に取り組んでいます。就学支援としては、学校探索や給食体験、お正月遊び、音楽発表会の見学などの機会を設け、1年生担任の来園もあります。また、保護者には就学相談シートを配布しています。				

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
ICTアプリや対面でのやり取りを通じて保護者との連絡や情報共有を行っています 保護者との連絡について、ICTアプリを活用しています。登園時には体温・排便・朝食・睡眠時間・体調・怪我や体調の変化などを確認し、情報はアプリや申し送りノートに記録して職員間で引き継いでいます。連絡帳機能には機嫌・排便・食事・睡眠・検温・子どもの様子を記載し、保護者の思いをくみ取りながら要点を簡潔に伝えています。降園時には当日の主活動・エピソード・健康状態を対面で報告し、子どもの成長を伝えています。さらに、各クラスホワイトボードにその日の活動や子どもの様子を掲示し、保護者へ情報共有を行っています。 発達段階に応じ、食事・排泄・歯磨き・着替えなどの生活習慣の支援を行っています 子どもの発達段階に応じた支援方法は、年間計画や全体的な計画、発達記録に基づいて示しています。具体的には、食事指導ではスポンジを用いた箸の練習遊びを行い、配膳位置を示しながらマナーも伝えています。排泄指導では、間隔が1～2時間空いた子どもからトイレに誘い、便座に慣れることや腹圧をかけて排泄できるよう、家庭と連携しながら進めています。歯磨き指導は、看護師が主導し、鏡の前で習慣づけを行っています。着替えは0歳児から1対1でサポートし、着脱の方法をていねいに伝えています。 年齢に応じて午睡時間を設定し、寝具や環境を整え、個々に合った休息に配慮しています 午睡時間は、0・1・2歳児クラスは12時から15時、3・4・5歳児クラスは13時から15時に設定しています。寝具は乳児用に法人オリジナルマット、幼児用に綿布団を使用しています。0歳児には午睡センサーを活用し、SIDS予防に努めています。眠れない子どもには横になって休める環境を整え、絵本を読むなどして過ごせるよう配慮しています。また、5歳児は就学に向けて徐々に午睡時間を短縮し、10月(運動会後)を目安に午睡を終了しています。			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
子ども会議や集団活動を通して子どもの主体性や気持ちを調整する力を育んでいます 子どもの集団活動として、イングリッシュタイム・知育・食育・ドリル・運動遊び・書き方・非認知能力プログラムなどを実施しています。また、朝の会・帰りの会・子ども会議(4・5歳児)を取り入れ、グループ名や園内ルール、夏祭りのテーマ、発表会の劇のせりふや歌詞づくりなどを話し合う機会を設けています。その際、子どもの気持ちを尊重しつつ、無理のない参加となるよう配慮しています。さらに、朝の会や活動前の導入の場で話す機会を設けることで、子どもが自分の気持ちを調整する力を育む取り組みも行っています。 リトミック・ダンス・運動遊びなど、さまざまな活動を通じて表現力を育んでいます 子どもの発達や関心に応じて、言葉や感覚への興味を育むよう配慮しています。日々の声かけや絵本の読み聞かせ、朝の会・帰りの会・子ども会議を通して対話の機会を重ね、子どもの思いを肯定的に受け止めています。身体表現力を育むためにリトミックやダンス、運動遊びを実施しており、雨の日でもサーキットや廊下を活用して0歳児も階段の上り下りなどで体を動かせるようにしています。さらに、月の制作なども取り入れ、子どもが表現する楽しさを感じられる活動を行っています。 散歩や園庭活動を通して、自然や生き物に親しむとともに体を動かす機会を設けています 週1～3回程度、散歩に出かけ土手や近隣の公園を訪れています。散歩や公園では、虫探し・落ち葉拾い・木の実集めなどの自然遊びや遊具遊び、土手滑りなどを楽しみ、猫じゃらし(エノコログサ)・桜・セミ・アリ・魚などの植物や生き物との出合いを体験しています。園庭では毎日、砂場遊び・鉄棒・ボール遊び・縄跳び・巧技台・マラソン・かけっこ・ドッジボールなどで体を動かしています。そのほか、蝶やアリなどの生き物を図鑑で観察したり、飼育したりする機会も設けています。			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目4の講評			
遠足の行き先や夏祭りの内容を考えるなど、主体的に関わる機会を大切にしています 子どもたちの成長や保育の成果を発表する場として、「夏祭り・運動会・クリスマス発表会」を実施しています。また、季節や文化・伝承に親しむ機会として、「七夕・敬老の日・十五夜・正月遊び・節分・ひな祭り」なども取り入れています。行事への興味や関心を高めるために、子ども会議や予行練習、お客さんごっこなども行っています。さらに、遠足の行き先や行事の内容は子ども同士で話し合いながら決めており、5歳児の遠足ではプラネタリウム・動物園・博物館などに出かけています。夏祭りでは、5歳児がテーマや縁日・お店の内容を考えています。 年間行事予定表は事前に配布し、行事後はアンケートを実施しています 行事の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るために、年間行事予定表を前年度の3月に配布しています。また、行事ごとの目的を園だより・クラスだより・行事のおたよりなどで伝えています。保護者が参加・見学できる行事として夏祭り・運動会・クリスマス発表会を開催しています。参加しない活動についても写真販売・園内掲示・ICTアプリなどを通して様子を伝えています。さらに行事後はアンケートを実施し、保護者の声に耳を傾けています。 3・4・5歳児の誕生会には保護者も招待し、子どもの成長を共有する機会としています 子どもの誕生日は月に1回お祝いしており、誕生児インタビューや歌のプレゼント、職員の出し物などで楽しめるプログラムを用意しています。また、写真・手形・メッセージ入りの誕生カードをプレゼントし、写真撮影も行うことで、誕生児が主役として喜びを感じられるようにしています。さらに、3・4・5歳児の誕生会には保護者も招待し、子どもの成長を共有する機会としています。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○非該当
評価項目5の講評			
子どもが安心してくつろげるよう、コーナー保育や職員体制を整えています 子どもが安心してくつろげるよう、床や壁には温かみのある木目調ややさしい色調を取り入れ、コーナー保育を行うなど環境づくりに配慮しています。また、安心できる声かけを心がけるとともに、個別の支援が必要な場面にも対応できるよう職員配置を整えています。さらに、子どもが疲れた際には身体を休められるよう、事務室などを活用し、状況に応じて落ち着いて過ごせる空間を確保しています。 延長保育時間は個別の関わりを大切にしながらゆったり過ごせるよう配慮しています 延長保育は18時から20時に設定しており、子どもの状況に応じて17時45分頃から合同保育を行っています。合同保育は1歳児室・5歳児室で実施し、専用のパズルや玩具を用意しています。個別のスキンシップや会話を多く取り入れ、子どもが安心できる関わりを心がけています。補食は夕食に影響しない量で提供し、アレルギー対応や給食と同じ献立にならないよう配慮しています。また、延長保育には経験の浅い職員が入る場合、経験ある職員と組み合わせるなど、安心して保育できる体制を整えています。			

6

評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評価

標準項目

●あり

○なし

1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している

○非該当

●あり

○なし

2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている

○非該当

●あり

○なし

3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している

○非該当

●あり

○なし

4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている

○非該当

●あり

○なし

5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている

○非該当

評価項目6の講評

子どもの気持ちに寄り添い、楽しい雰囲気の中で食事できる環境を整えています

食事は各クラスで行っており、0歳児は1対1で家庭と同様に落ち着いて食べられる環境を整えています。他のクラスでも、座る姿勢を保持できるよう箱椅子や足台を設置するなど配慮しています。食事中は楽しい雰囲気を大切に、子どもの「おいしい」「苦手でも一口食べられた」といった気持ちに共感しながら、完食を求めずに介助を行っています。また、年度末には子どものリクエスト給食や屋上でのおやつなど工夫も取り入れています。栄養士や調理師は毎日保育室を訪れ、子どもの喫食状況を確認しています。

給食では、安心・安全で旬の食材にこだわった、和食中心のメニューを提供しています

食材選びや献立作成では、安全・安心を基本に、旬の食材を取り入れ、だし汁や乾物を活用した和食中心のメニューを提供しています。豆腐の日や納豆の日などの記念日にちなむ献立や、野菜を使ったベジおやつも取り入れています。調理や配膳の際には、旬の食材がおいしく見えるよう盛り付けに工夫し、行事食では天の川やトナカイなどの盛り付けで楽しい雰囲気を演出しています。食物アレルギーのある子どもには、給食マニュアルに基づく除去食や代替食を提供し、色違い食器や名前表示トレイ、職員によるダブルチェックで誤食防止に努めています。

野菜の水耕栽培や調理体験などの食育活動を通じて、食への関心を育んでいます

食育活動では、当番の子どもが職員と一緒に献立を読み上げ、三色食品表を使って栄養素について学ぶ機会を設けています。また、絵本・紙芝居・ペープサートなどを通して食文化や食材の理解を深めています。さらに、水耕栽培(小松菜・サンチュ・チンゲン菜など)を行い、収穫した野菜を味噌汁などの調理で味わったり、自宅に持ち帰ったりしています。調理体験は2歳児から始め、野菜ちぎりやラップおにぎりづくりを経験し、5歳児になるとケーキ・クッキー・おはぎづくりなどにも挑戦しています。

7

評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評価

標準項目

●あり

○なし

1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している

○非該当

●あり

○なし

2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている

○非該当

●あり

○なし

3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている

○非該当

評価項目7の講評

防災訓練・防犯訓練・交通安全指導などを通して、安全に対する意識を高めています

子どもが自身の健康や安全に関心を持てるよう、防災訓練では、火災・地震・水害などを想定した避難訓練を月1回実施し、防災頭巾のかぶり方も練習しています。防犯訓練では、職員間の合言葉による伝達訓練や、警察による訓練を行っています。交通安全指導では、散歩時に信号の渡り方や歩き方を伝えるとともに、警察による交通安全教室も行っています。健康指導では、裸足保育や手洗い・うがいを実施しています。また、園内の危険箇所については子ども会議で話し合う機会を設け、事故や怪我の防止につなげています。

内科健診や歯科健診を実施し、医療機関と連携して子どもの健康管理に取り組んでいます

子どもの健康状態を把握するため、嘱託医による0歳児健診を毎月実施するとともに、全園児を対象とした内科健診を年2回行っています。また、嘱託歯科医による歯科健診も年1回実施しています。与薬は原則として行っていないが、熱性けいれんや食物アレルギーなど対応が必要な場合には、保護者から与薬依頼票の提出を受け、薬を預かって対応しています。医療的ケアが必要な子どもについては、かかりつけ医に留意事項を確認するなど医療機関と連携しながら、受け入れができる体制を整えています。

保護者に保健情報を提供するとともに、職員は感染対策やSIDSの予防に努めています

保護者と連携して子どもの健康維持に取り組むため、保健だよりを毎月発行し、流行する感染症の情報や家庭での対処方法を伝えています。感染症が発生した際には、玄関での掲示や一斉メール配信により保護者へ情報提供を行っています。職員は緊急搬送訓練や嘔吐処理研修、新卒必須研修などに参加し、適切な対応方法を学んでいます。SIDS対策として、午睡時には職員と看護師が視診を行うとともにベビーセンサーを活用し、0・1・2歳児はプレスチェック表、3・4・5歳児は入眠チェック表を用いて健康状態を確認しています。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
保護者の負担軽減として、オムツなどのサブスクリプションサービスを提供しています 「家庭と保育園が共に子育てをする」を基本方針とし、保護者対応にあたっています。接遇については「保育士基本マナーマニュアル」を整備し、新卒必須研修や園内研修、職員会議を通して理解を深めています。保護者の子育てや就労状況に配慮した支援を行うため、個別面談や家庭調査書で家庭の状況や価値観を把握するとともに、行事アンケートや第三者評価の利用者調査などを通じて保護者の意向を確認しています。さらに、保護者の負担軽減の一環として、オムツ・おしりふき・エプロン・口拭きのサブスクリプションサービスを提供しています。 保育参観や保護者会では、保護者が参加しやすいよう日程や実施方法を工夫しています 保護者と職員の信頼関係を深めるため、3～5歳児は年2回の保育参加、0～2歳児は年2回の保育参観を実施しています。保育参加は、イングリッシュタイムやダンス活動に合わせて実施しています。あわせて、個別面談を年2回、保護者会を年2回開催しています。保護者会は土曜日に実施し、保育参観は約1か月の期間を設けるなど、保護者が参加しやすいよう配慮しています。さらに、保護者同士の交流を促進するため、保護者会終了後に懇談会を開催しています。 保護者懇談会や個別面談では、テーマを設定し、意見交換する場を設けています 子育てに関する考え方について相互理解を深めるため、保護者懇談会や個別面談を通じて、「トイレトレーニング」「離乳の進め方」「いやいや期の対応」などをテーマに意見交換を行っています。また、年1回の保育参加では保育士体験の機会を設け、保育の実際や保育士の役割について理解を深めてもらえるよう取り組んでいます。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
ショッピングモール探索や遠足、給食体験など地域で多様な体験の機会を設けています 「多様な交流や地域環境にふれ、子どもがさまざまな経験すること」を目的として、さまざまな活動を行っています。散歩の際には、近隣のスーパーで旬の野菜を見せてもらったり、ショッピングモール内を見学させてもらったりする機会を設けています。遠足では電車に乗る体験を取り入れ、科学博物館や鉄道博物館、動物園などを訪れています。また、小学校が開催する学校探検や図書体験、給食体験、学校見学、お正月遊び、音楽発表会などにも参加しています。 地域の人やシルバーボランティア、実習生など多様な人とふれあう機会を設けています 「異なる年齢やさまざまな職業の人とふれ合い、多様性への理解を深めること」を目的として、職員以外の人と交流する機会を設けています。夏祭りでは地域の方を招き、縁日ごっこに参加してもらうなど交流の場を設けています。また、保育実習生の受け入れ時には、ピアノやこま回しなどの特技を披露してもらう機会としています。さらに、シルバーボランティア主催の集会では、ピアノやベルを用いて子どもと一緒に歌うなど、世代間交流を行っています。職場体験の受け入れ時には、絵本の読み聞かせなどを通して子どもと関わる機会を設けています。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	運動プログラムを基盤に身体を動かす活動を日常的に取り入れ身体発達を支えています	
内容①	法人が開発した「運動レシピ」をもとに、日常的に身体を動かす活動を行っています。屋上園庭が芝生である環境を生かし足裏への刺激を取り入れながら体幹の発達を促しています。また、四肢運動・リトミック・サーキットなどを通して、跳ぶ・くぐる・バランスを取るといった多様な動きを経験できるようにしています。雨天時には広い廊下を活用して体を動かす機会を確保しています。さらに、大学と連携した体力測定を年間を通して実施し、その結果を保育活動に生かしながら子どもの健やかな発育を支えています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル②	行事では、子どもが主体的に関わり、協力して取り組む経験を大切にしています	
内容②	行事の実施にあたっては、子どもが主体的に関わり、協力して取り組む経験を大切にしています。夏祭りでは5歳児がテーマを決めて縁日やゲームコーナーを企画し、ほかの学年の子どもは「お客さんごっこ」として参加するなど、園全体で楽しめる行事としています。遠足の行き先も子ども会議で話し合っており、プラネタリウムや動物園などへ出かけています。また、発表会では子どもたちが選んだダンスや歌、劇を発表しています。さらに、法人主催のサッカー大会「あすなろ杯」では、5歳児が練習や作戦会議を重ねて大会に参加しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保育参加や参観を通して、普段の保育活動や子どもの様子を保護者と共有しています	
内容③	保護者と職員の信頼関係を深めるため、3～5歳児は年2回の保育参加、0～2歳児は年2回の保育参観を実施しています。保育参加はイングリッシュタイムやダンス活動に合わせて行うほか、誕生日の機会にも参加できるようにしています。保育参観は約1カ月の期間を設け、今年度からは夕方の時間帯まで受け付けるなど、保護者が参加しやすいよう配慮しています。あわせて、個別面談を年2回、保護者会を年2回開催しています。さらに、保護者同士の交流を促進するため、保護者会終了後に懇談会を開催しています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	愛着形成を基盤に、集団活動や異年齢交流の機会を設け、子ども同士が関わり合いながら社会性や協働する力を育む保育を実践しています
	内容	0・1・2歳児では担当制を取り入れ、特に0歳児は一人ひとりの関わりを大切にしています。担当職員が食事や排泄、着替え、スキンシップなどを通して継続的に関わり、安心できる関係づくりと愛着形成を図っています。3・4・5歳児クラスでは、少人数のグループ活動や集団遊びを通して、友だちと楽しむ経験や協力する経験を重ねています。また、散歩や園庭活動、日常生活の中で異年齢児が関わる機会も設け、子ども同士の関係が広がるよう配慮しています。乳児期の安心できる関係を土台に、人との関わりを広げながら育ち合う保育を行っています。
2	タイトル	食材にふれる体験や調理体験、栽培活動などを通して、五感で食材に親しみながら、食に対する興味・関心を高めています
	内容	食材にふれる体験や調理体験、栽培活動などを通して食育に取り組んでいます。人参を題材にした活動では、写真を見ながら野菜について学んだ後、実際にふれて感触を確かめるなど、五感を使って食材に親しんでいます。また、とうもろこしの皮むきや枝豆をさやから出す体験、米研ぎやおにぎり作りなど、発達に応じた調理体験も取り入れています。さらに、水耕栽培を行うほか、近隣スーパーで旬の野菜を見る機会も設けています。当番活動では、献立の読み上げや三色食品群表を用いて栄養について学ぶなど、食に対する興味・関心を高めています。
3	タイトル	会議の実施方法の見直しにより連携強化を図るとともに、係活動やメンター制度を活用し、職員同士が支え合う職場づくりにつなげています
	内容	会議の実施方法を見直し、職員会議やリーダー会議、サブリーダー会議など、会議ごとに話し合う内容を整理しています。これにより、課題や問題について役割を分担しながら検討できる体制を整え、職員間の連携強化につなげています。また、クラスとは別に係活動を設け、クラスを越えた職員同士の関わりや横の連携を図る機会としています。さらに、メンター・メンティ制度や親睦会も実施し、職員の定着や人間関係の構築に努めています。職員自己評価では「人間関係が良い」「相談がしやすい」といった声が多く見られ、取り組みの成果が確認されました。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	若手職員向けの研修内容や実施時期を見直すとともに、育てる立場の指導力向上にも取り組んいきたいと考えています
	内容	職員のスキルアップを図るため、法人研修としてOFFJT研修や階層別研修、WEB研修を実施しています。また、園内研修では嘔吐処理やAED研修、緊急搬送訓練などを行っています。一方で、職員構成を見ると在籍年数の長い職員が多い中で、経験の浅い職員も一定数おり、知識や実践力に差が生じやすいことを課題と捉えています。特に保護者対応については個人差が見られる状況です。これからは若手職員向けの研修内容や実施時期を見直すとともに、育成する立場の指導力向上にも取り組んいきたいと考えています。
2	タイトル	地域環境の変化を踏まえ、お話し会やわらべ歌などのプログラムを新たに取り入れ、地域の子育て支援の充実を図ることを計画しています
	内容	地域の未就園児家庭を対象として「保育所体験」を実施するとともに、夏祭りなどの行事にも招待しています。ただし、保育所体験については現在、見学者を中心に案内しており、随時受け付ける形での実施となっています。直近では近隣に高層マンションが新たに建設されるなど、地域の子育て家庭への支援をさらに充実させていく必要性を認識しています。今後は、お話し会（絵本の読み聞かせ）や家庭でも楽しめるわらべ歌などのプログラムを新たに取り入れながら、地域の子育て支援の充実を図っていくことを計画しています。
3	タイトル	現在実施している戸外活動などの取り組みについて、保護者への伝え方を工夫していくことが望まれます
	内容	散歩に出かけた際には土手や近隣の公園を訪れています。また、園庭では毎日、砂場遊びや鉄棒、ボール遊び、縄跳び、ドッジボールなどを通して体を動かす機会を設けています。雨天時には広い廊下を活用し、室内でも体を動かせるよう工夫しています。一方、利用者調査の設問「自然とのふれあいや社会との関わりを目的にした行事や戸外活動の機会が充実していると思いますか」では、「はい」の回答率が54%にとどまっています。こうした結果を踏まえ、散歩や戸外活動の実施状況について、保護者への伝え方を工夫していくことが望まれます。